

温海温泉

湯の濱村、海邊也、大山より一里に足らず、夏月湯治のもの少々有、小瘡に尤効あり、

〔出羽國風土略記〕^三温海嶽熊野權現
麓に温泉有名湯にして、頭痛、眩暈、上氣、消渴、痰、打見、脫肛、下血、脚氣、淋病、小瘡、瘡毒、灸瘡、婦人血道を治す、血痰は血積内障、外障、風等には忌む、或いふ、嶽に祭る熊野權現は、延喜式神名帳に載る、田川郡由豆佐の賣神社也、故に去秋彼地に行て舊記等を乞求るに、寶永元年、領主の御尋有て、書上たる趣を開板したるもの有、其文にいふ、後堀河院御宇嘉祿二年、温海鳴動し、河水波立たるを、時の人しらひてと呼けるとぞ、其内に温泉涌出しに、小聖上人藥師如來を安置し給ひけるに、万の難病を助おわしまさんと誓有て、奇瑞さまなるよし云傳へけるに、今も違はずと云々、外に村肝煎等連名にて書上たる控有、夫には嘉祿二年四月二日、温海嶽鳴動し、河水波立たる時、白髪たる老人呻給ひける、其中に温泉涌出しと有、上人藥師安置の趣はいづれも同じ、連名の上に温海嶽は藥師と有、世人入湯の中、湯屋にて念佛を禁ず、又嶽參詣にも念佛を申さず、正面の湯と云より、四五間上に地藏湯といふ有、熱湯にして野菜茹を其湯の餘を石盤に溜て、村中洗濯湯とす、湯の上に石壇を設て禿倉あり、土人地藏堂といふ、同村東の山際に藥師堂有、本尊の左右に十二神將あり、享保元年に鑄たる鰐口あり、湯藏大權現堂主温泉山長徳寺と彫刻、寺等禪寺にて堂の左にあり、四月八日は講ありとて、古來は濱温海村永叔寺といふ、寺家別當たりしとぞ、長徳寺に縁記ありとはいへども、一覽を許さず、或言近年鶴岡の家中にて出しと云、湯藏權現と稱するを見れば、湯の守護神を祭、藥師を本地佛と寺家の稱したるより、檀上に佛像を立並べ、神號を鰐口に湯藏權現とばかり残りしにや、又村老の話に、湯の邊に祭る所の地藏といふは、則湯藏權現にして、藥師を湯藏權現といふは、享保以來の事にして、湯藏を地藏と轉訛せしにや、熊野權現には社家一員、修繕四家あり、